

植物とのふれあい・学び

発行：理学研究科・植物管理室 2018年11月

植物管理室では、園内での活動を中心に、温室や圃場で見られる季節の花など、さまざまな情報を紹介しています。

FN「里山の植物を観察しよう」どんぐりの観察



10月20日(土)に、秋の樹木観察とどんぐりの見分け方を実施しました。天候にも恵まれ、キャンパスを巡って、どんぐりの木を中心に秋の樹木を観察しました。子どもたちは、どんぐりを拾い

ながら楽しく歩きました。植物管理室では、オキナワウラジロガシやアカガシ、ウラジロガシなどキャンパス内では見れないめずらしい種にも出会えました。今日1日で、19種類のどんぐりの木を観察し、全員「どんぐり博士」になりました。



フィールドを歩いた後は、教室で、どんぐりテストに挑戦しました。その後は、葉とどんぐりの形を見比べながら「どんぐり図鑑」を完成させ、最後に里山講座の締めくくりとして博物館より認定証をいただきました。



シイの実を試食しました

理学研究科公開(11月3日) 今年も盛り上がりしました



毎年必ず来て下さる方も多いです。



新たに企画したマツボックリを使ったミニツリー作りも好評でした。ピオラの他、中学生の職場体験で作ったナテシコやハボタンの苗も配りました。

今年も、大温室の植物公開・植物クイズ・しめ縄作り・どんぐりストラップ・ぶんぶんごま作りなどを企画しました。今年も、これまでで最多の来場があり、一日中賑わいました。

中学生の職場体験

9月12日に、東雲中学特別支援学級2年生4名、11月19-20日に、東広島市の中学2年生6名が職場体験を行いました。



ナテシコの種まき、ハボタンの移植のほか小型の耕うん機を使ったマル千畝作りやタマネギ苗の定植、ホウレンソウの種まきを行いました。



中学校の先生や広大生も協力して作業を行う場面もありました。

栽培実習・H30年秋コース



植物栽培入門講座は、秋コースを行いました。小雨でもカッパを着て畑作業をがんばりました。シリアや中国からの留学生も参加されています。収穫時期になると、毎回、両手にかかえきれないほどの野菜を持ち帰ります。ジャガイモや丹波黒枝豆の収穫も行いました。



野菜を上手く料理して食べるのも大切な体験です。下の写真は、たくあん作りの様子。



見学者来園

11月16日に東広島市郷土史研究会、26日には、山口県植物学会のみなさんが、施設見学に来られました。写真の前列右から2番目の郷土史研究会の堀越先生は、100歳を越えられています。



附属幼稚園の稲刈り

附属幼稚園の年長組25名が10月22日に生態実験圃の田んぼにて稲刈りを行いました。当日は、理学研究科植物学専攻の学生さんたちも協力してくれました。何度か刈るうちに鎌を持つ手も慣れてきて、最後はとても上手に刈ることができました。わらで稲を束ねる仕事も手伝ってくれました。刈った後は、小川で長靴の泥を落としました。



元気いっぱい園児たち

園内の花

デュランタ *Duranta repens*



クマツヅラ科 熱帯性の常緑性低木で、夏の鉢物として人気があり、よく流通している。沖縄では、街路樹や庭木として、植栽される。花期は、一般的には6-10月。

園内の花

マユハケオモト *Haemanthus albiflos*



ヒガンバナ科 南アフリカ地方原産で、明治時代に渡来した球根植物。たくさんの小さな花が集まって咲く眉刷毛のような「ふさふさ」の花がユニーク。別名：ハエマンサス。



【お問い合わせ先】

広島大学理学研究科 植物管理室

TEL:082-422-7111 (内線2842)

E-mail: tshioji@hiroshima-u.ac.jp